

リーズ・トリニティ大学（イギリス）

講義が始まってまだ1週目なのですが、次回の授業に向けた課題がすでにあるため、いくつか論文を読み、意見をまとめることになっています。講義の内容自体は、興味のある分野のため、すごく前向きな気持ちではいられるのですが、教授の話すスピードや語彙の難易度、他学生の積極性には、なかなかついていけないというのが正直な感想です。

イギリスの学生は、とにかく発言します。気になったことなど些細なことでも質問します。そのため積極性に関しては、日本にいる時よりも何十倍も意識していないと何も発言できず、「意見がない」もしくは「授業に参加したくない」というような印象を与えかねないと感じました。自分自身の英語力は特に積極性に大きく影響するため、日々英語学習も継続したいと思います。

長庚大学（台湾）

今学期は4科目履修することとなりました。

Statistics(Ⅰ)

データの記述や確率、仮説検定など、統計とその応用について学び、Excelを用いて問題解決を目指す授業。

<授業形態> 主に、教授がスライドを使って進める。Excelでのワークも有。

<学生数> 約15人

Accounting(Ⅰ)

会計モデルやそれに関する測定プロセス、データの分類を学び、意思決定者とのコミュニケーションに不可欠な会計知識を理解する授業。

<授業形態> 一斉授業

<学生数> 25人

Big Data Application and electronic Commerce

ビッグデータ分析を活用し、意思決定の質と顧客体験を向上させる方法を学び、そこから消費者の行動と市場動向を解釈する授業。

<授業形態> 主に、教授がスライドを使って進める。

授業内で課題に取り組むワークとグループワーク有。

<学生数> 約60人

Basic Chinese(Ⅰ)

総合的な中国語スキルの向上を目標とする授業。

また、文化や社会の特徴に触れ、異文化価値観の尊重を目指す。

<授業形態> 教授がスライドを使って進め、ペアワークや個人ワークを行う。

<学生数> 約20人

1セメスターあたりの履修科目は4科目と多くはありませんが、講義はすべて英語と中国語で行われており、その点において大変苦戦しています。そのため、英語での専門用語の理解や、日々の復習・自習は欠かせないものとなっています。

授業が始まってから1か月が経ち、現在はいくつかの中間テストを控えているところです。留学後初めてのテストで緊張もありますが、しっかりと準備を整え、万全の状態で臨みたいと思っています。

仁川大学校（韓国）

韓国語の授業を4つと学科の専門科目である日本語会話の授業を1つ履修しています。韓国語の授業は、一回3時間と長いため、これまで習ってこなかった専門的な語彙や実践的な文法をみっちり学習することができて楽しい反面、復習予習が大変です。授業に応じて、リスニングや読解、筆記など、メインとなる学習方法が異なっているため、さまざまな角度から韓国語の理解を深めることができます。基本的に会話練習や発表は、どの授業でも行うため、日本にいる時よりもより実践的に韓国語を使う機会が増えます。

色々な国の留学生たちと授業を受けるため、彼らの積極的な姿勢に刺激を受けることが多く、自分自身も間違いを恐れずに、意欲的に発言や発表を行うことができています。クラスは、韓国語レベルがある程度同じの人たちで構成されるため、その点も、みんなが失敗や間違いをしながらも積極的に発言や反応をしやすい、暖かい雰囲気づくりにつながっていると感じます。授業で、韓国の文化や最近の社会情勢、流行などを理解することはもちろんですが、同じクラスのタイや中国、ドイツの友達と韓国語で会話する中で、彼らのルーツや文化にも触れることができ、とても面白く興味深いです。

メモリアル大学（カナダ）

これまでは実家暮らしだったため、初めて一人暮らしに近い生活を送るようになり、初めは分からないことが多く戸惑いもありましたが、徐々に慣れ、最初の頃よりも早く家事をこなせるようになってきました。寮は2人で寝室以外の設備をシェアする形式で、韓国人のルームメイトと共に暮らしています。最初は文化や感覚の違いに驚きましたが、最近では違いを楽しめるようになり、お互いに自国の料理を作りあったり、文化や言語を教えあったりして、楽しい日々を過ごしています。

カナダのスーパーマーケットはとても規模が大きく、お肉コーナーでは、ステーキ用の分厚いお肉しか売っていないことにとても驚きました。カナダに来てからは自炊しているのですが、日本食の多くは薄切り肉が使われていることに気づきました。最初の頃は食べ物が合わず、普段食べなれているものを作ろうとしても作れない状況でしたが、ないものは他の調味料で代用したり、薄切り肉の代わりにベーコンを使ったりと、工夫して料理ができるようになってきました。



大学のエントランス

エトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）

ハンガリーに到着して3日目ぐらいまでは、買い物の仕方からバスの乗り方、居住環境、全てが日本とは異なる状況で、自分の第2言語である英語を使って生活していくことにとても不安を感じていました。最初の頃はうまく自分の英語が通じない、反対に相手の英語を聞き取れないということがある度に毎回落ち込み、焦りを感じていましたが、現在は、「完璧な英語でなくても自分が何かを伝えたいという思いがあれば相手は理解しようとしてくれる。」「わからないことはわからないとしっかり伝える」ことがとても大事だということに気が付き、様々な人と交流するように心がけています。